

バックブザーの違いを知り機械に注意

千葉土木施工管理技士会
日之出建設株式会社

宮田 章[○]
坂部 治郎

1. 適用工種

霞ヶ浦の管理用通路の不陸整正を行い、地域住民が湖沼への親しみを増すためにする仕事である。作業はグレーダー・タイヤローラー・振動ローラー・ダンプトラックを使う工事で作業の性質上、前進・後進が多い作業であった。作業員は、機械との接触には十分に注意をはらうために、聴覚による指導をする事とした。

2. 改善提案

作業機械は機種ごとに、バックブザー音を違う機械を選定して、機種ごとにバックブザーを作業員が自ら録音して、安全会議時の問題の提起とした。今までは、責任者が安全会議のシナリオ等は作っていたが、実際の作業する人が作ってもらう事とした。機種別の音の違いを知り、どの機械が後進しているかを、音により聞き分け、機械による踏み潰され防止する対策とした。

3. 従来工法の問題点

安全の会議は座学が多く、そのシナリオも責任者が作っていたが、今回は作業員が録音した。作業員が現地で、タイヤローラーの音を直接録音し聴覚による説明をした。

そのために、従来の説明よりも近親間があり、笑

顔での会議となった。

4. 工夫・改善点

機械の選定にあたり、前もってバックブザーの違いを機械を選定せねばならず、リース業者との連携も必要である。録音については、携帯電話には複合機能があり、録音は簡単にできるので、各自のバックブザーを録音もできるので携帯電話も安全面でも役立つ事が気づいた。

5. 効果

オペレーター・作業員も機種によって多少の音の違いは感覚的には知っていたが、自分で使っている機械の音を他人から聞かされ「あれこんな音だっけ」と再度自分の耳で機械を確認するほどであった。オペレーターと作業員とが音によって、お互い理解が出来好評だった。



写真-1 バックブザー録音



写真-2 バックブザー聴音

6. 適用条件

選定機械でバックブザー音が違う時に使う事ができる。

7. 採用時の留意点

機種によるバックブザーの違いで後進している機械との、挟まれ防止対策である。次の現場では音の違う機械を使用することになり、あくまでもこの活動の流れは使いまわす事はできるが、一般的な安全会議において、音を聞かせ、これがグレーダー・ローラーですと説明をすると危険です。

この方法はあくまでも、現地に搬入された機械から直接実際に作業する人が録音し、それを説明する事である。